Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

066

幼児期の性教育

2．生命誕生・生命尊重

山　田　知　通
（金城学院大学）

Ⅰ　はじめに

前報[1]において、幼児期の性教育は、「性に対する豊かな感性を育むことをめざして行われる、からだの学習を基盤とした健康教育である。」とし、性に対する”豊かな感性”について、次のように述べた。

性教育が意図する豊かな感性とは、「生命、身体を愛おしむこころ」、「生きとし生けるものを愛おしむこころ」を意味する。換言するならば、生命を愛おしむこころは、生命あるものを尊重するこころであり、それは、生命に対する畏敬の念、思いやりの感性である、と指摘した。

本報では、”生命誕生と生命尊重”を取り上げ、指導内容、指導方法を概観する。特に、指導上の留意点について、園及び家庭における性教育の観点から、その問題点を提起し、教師及び両親の課題とする。

---

[1] 前報（口頭発表）において、幼児期の性教育の在り方について、教師及び両親の課題の観点から、次の諸点を指摘した（第４６回大会　１９９３）。

すなわち、教師及び両親は、

ア　自分の有りのままの姿（望ましい性的人間関係）を通して、巧まず、自然に、人間の”性の在り方”を教えることが重要である。

イ　性に対する”豊かな感性”を育むことを目的として、幼児に対して性教育を行うことが重要である。

ウ　幼児期の性教育の中心・重要課題として、”性自認”、すなわち、男の子・男性、女の子・女性に育てることを認識する必要がある。

エ　幼児に性のことをどう教えるかを考える前に、幼児の性とはどういうものか、すなわち、性的未成熟な存在として認識する必要がある。

オ　性について、話すことができる習慣をつけると同時に、どのように話せばよいかを、性の私事性をふまえ、学ぶことが必要である。

カ　幼児からの性に関する質問に答える方法として、性に関する質問を特別視せず、幼児に答えを見付けさせることを考えておくことも必要である。

キ　性教育を行うにあたって、固定観念としてあるところの”性”の観念を払拭すること、すなわち、性を自然なものとして受け止めることが重要である。

Ⅱ　生命誕生と生命尊重：指導内容及び指導方法

１）指導内容及び指導方法（例）

前報同様、日本性教育協会（性教育　新・指導要項）及び東京都教育委員会（性教育の手引き）の資料に基づき、「生命誕生及び生命尊重」に関する指導内容・指導方法について概観する。

【日本性教育協会（性教育　新・指導要項）】

生命誕生に関する具体的内容として、「イ　赤ちゃん誕生」に示されている（参照：第４６回大会研究論文集　３４４－３４５）。

なお、幼児の誕生に対する関心にこたえる、「赤ちゃん誕生」の指導を通して、自分の存在の喜びや感謝の気持ちをもたせるようにするとともに、生きものへのいたわりの心情と生命尊重の態度の基礎を養うことをねらいとしている。指導上の留意点では、家庭との連携、家庭環境の把握の重要性が指摘されている。[2]

[2] 性教育　　新・指導要項解説書　PP.92-93

【東京都教育委員会（性教育の手引き）】

「幼稚園における実践例－幼稚園における性に関する発達段階からとらえた指導要項」[3]によって、生命誕生と生命尊重について概括する。

[3] 性教育の手引き　幼稚園・小学校編　P.19-25

幼稚園教育としてのねらい

（４）人間や生き物の誕生や成長について知り、生命を尊重する態度の素地を養う。

指導内容項目及び指導内容

①赤ちゃん誕生

○お父さんとお母さんがいて赤ちゃんが生まれる。

○赤ちゃん誕生までの様子を知る。

○お母さんのお腹の中で、お母さんから栄養をもらってだんだん大きくなって生まれてくる。

○祖父母や両親（家族）は、赤ちゃんの誕生を喜び、その成長を期待してよい名前をつけたり、お祝いをする。

○赤ちゃんは、みんなの愛情を受け、大切に育てられて大きくなる。

②自分の誕生

○お父さんとお母さんがいて自分が生まれた。

○自分もお母さんのお腹の中で大事にされて、だんだん大きくなって、お母さんから生まれた。

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

○自分が生まれることを家族みんなが楽しみに待っていた。
○両親や家族は、自分の誕生を喜び、愛情を持って大切に育ててくれた。
○自分は両親や家族にとってかけがえのない大切な存在である。
○自分の命は、多くの人に支えられている。
○お父さん、お母さんやお世話になった人への感謝の気持ちを持つ。

③　生命の連続性と生命尊重

○赤ちゃん、子供、大人、老人など各世代があり、人や動物は成長し、生命が連続している。
○人間や動植物は、病気になったり、枯れたりすることがある。
○人間や動物には生命があり、病気や高齢のためにやがて死を迎える。
○人間や動物だけではなく、植物にも生命があり、成長し、やがて枯れて種や根が残る。
○一人一人の生命は、かけがえのない大切なものである。
○人間と同じように生命をもつ動植物もいたわり大切にする。
○飼育栽培活動の中で、動物の誕生や死、植物の発芽、開花、収穫、種採りなどに出会ったり、経験して、いろいろな感情を体験する。

指導方法

①赤ちゃん誕生、②自分の誕生に関しては、誕生会、母の日、父の日等の行事の機会をとらえて指導する。また、日常生活の中で妊娠中の母親の話題や弟や妹の誕生の話題がでたとき、その機会をとらえて指導する。なお、弟・妹が誕生した幼児に対する配慮及び母子、父子家庭の幼児に対する配慮の必要性を指摘している。

③生命の連続性と生命尊重に関しては、飼育栽培活動、動植物の世話を通して指導する。留意点として、動植物の誕生や死を体験する中で、生命の神秘さ、大切さを感じとり、生命あるものへのいたわりの心を育てていくようにすることが指摘されている。

2）生命の誕生と生殖・性交

上述の①赤ちゃん誕生で、お父さんとお母さんがいて赤ちゃんが生まれる、また②自分の誕生で、お父さんとお母さんがいて自分が生まれた、に関して、幼児向け絵本にみられる”性交”場面の記述を紹介する。

【大島清監修　あかちゃん、どうしてうまれるの？　六法出版】

『おとこがやさしいきもちになり、おんながうれしいきもちになり、いつまでもいっしょにいたいなあとおもうようになって、おとこのあかちゃんのたね（せいし）が「ちつ」をとおっておんなのあかちゃんのもとにとどくの、これがあいしあうということ』

【水野都喜子　せっくすのえほん　あゆみ出版】

『おとうさんとおかあさんが、かわいいあかちゃんがほしいねと、なかよくいっしょにねるときに…。おかあさんのちつへ、おとうさんのおちんちんをいれて、せいしをしきゅうへはこぶ。たくさんたくさんせいしはとびだす。このことをえいごでせっくすというの。』

Ⅲ　「生命誕生・生命尊重」の指導に関する留意点
：教師及び両親の課題

教師及び両親の課題として、”生命誕生・生命尊”の指導に関する留意点について、豊かな感性を育む性教育の観点から指摘する。具体的には、生命の神秘性と生命の尊厳について、”感性にふれる性教育”の重要性との関わりで検討する。

生命の誕生を、科学的な事実として、科学的に理解させることは、性教育の基本である。しかし、生命に対する畏敬の念は、生命への感動・生きる感動を与える、感動ある性教育によって、思いやりの感性にふれ、深められるものである。換言するならば、生命・性に対する、理性的認識（科学的まなざし）と感性的認識（情緒的まなざし）の重要性を意味するものである。

生命の神秘性について、受精の科学的知識によって認識させることの有効性を否定するものではない。しかし、言葉で教える「生命の神秘性」より、からだの学習を通して、生命や身体の不思議・素晴らしさを直感させ、自然に認識させることが重要である。また生命誕生（性）に対する夢を大切にしたいと考える[4]。

[4]林寛子　子ども産みます　学陽書房　PP.60-66
『著者は、妊娠について、「科学的事実」と妊婦にとっての「心の真実」という表現を用い、「コウノトリが赤ちゃんを運んできたんだよ」という説明のほうが、受精の「科学的事実」よりしっくりときた、と述べている。』

祝福された生命誕生は、生命の神秘性とともに、生命尊重（生命の尊厳）の基盤となるものである。しかし、望まれて産まれた「尊い命」の主張には、「尊くない命」の存在を肯定する危険性を感じざるをえない。すなわち、誕生は個人的なものであり一律に語るべきものでないこと、また「出生の秘密」についての十分な配慮が、生命の尊厳を考える上で重要である。

あくまでも「自分にとってかけがえのない命」であることを、幼児とともに考えていきたいと思う。

NII-Electronic Library Service